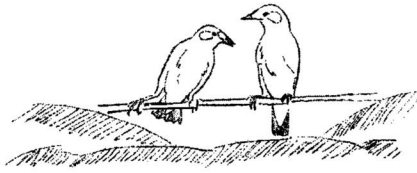


# 雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉



豎琴

小林貴子

昼月のうすき光に夏椿  
自愛とは薔薇に近づきすぎたる日  
萍が泳いでゐるよ根を使ひ  
月の出やまだ育ちをる雲の峰  
二色なす断層へ向け草矢打つ  
何か心残りや梅雨が短すぎ  
プーチンと関はりはなし毛虫焼く  
風羅坊鱧の骨切りして居着き  
水鱧やふたりつきりの祝賀会  
豎琴に頬寄せて弾く星祭